

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第7回）会議要録

- 1 日 時 令和7年1月8日（水）18時00分から19時45分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階 第1、2会議室
- 3 出席委員 阿部、和、熊田、見城、坂井、酒井、佐藤、鈴木、西田、馬場、
福本、町田、宮田、山田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 市川（敬称略）
- 5 事務局 福島（常務理事）、田村（事務局長）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

（1）事務局より

事務局より、今回の策定委員会では募集したパブリックコメントの内容に対して策定委員より意見を出してもらう予定だったが、策定委員へ提示できるような取りまとめが出来ていないため、重点的な取り組みとする内容を決めるための話し合いとし、パブリックコメントに対する意見を取りまとめた資料について、次回の策定委員会で提示する旨を伝えた。その後、配付資料の確認を行い、主管課より武蔵野市地域支援課の福山課長および林課長補佐が出席することを伝えた。

（2）委員長挨拶

【委員長】 今年もどうぞよろしく申し上げます。今日で策定委員会は7回目ということで、パブリックコメントも募集期間が終了し、一旦山場を越えたように感じております。今後の策定委員会では、今まで出た意見を踏まえ、計画における重点的な取り組みを決めていくこととなりますので、是非グループディスカッションでは重点的な取り組みとする内容を決めるための話し合いをして欲しいです。

（3）議 事

①第6回策定委員会 会議要録確認 資料1

【委員長】 資料1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第6回）会議要録を確認し、意見や訂正等があれば修正いたしますが、いかがでしょうか。なお、委員会終了後の校正依頼については、1月15日（水）までに事務局まで連絡ください。

※委員からの意見等はなかった。

②第5次活動計画の特に推し進めたいアクションの選定 資料2・3

【委員長】 第5次活動計画の特に推し進めたいアクションの選定について、事務局より説明をお願いします。

※資料2・3に基づき事務局より説明した。

【委員長】 各グループにてグループディスカッションをお願いします。

(グループワークを実施した後、各グループで出た意見について発表があった。詳細は

別紙 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第7回）グループワーク報告を参照。)

【委員長】 今回のグループディスカッションでは、特に推し進めたいアクションの選定に関して意見を出してもらいましたが、それぞれのグループの報告を聞きながら、改めてアクションを選定することの難しさを感じながらも、課題解決に向けたアクション自体が既に体系化されている内容であることを実感しました。ただ、計画書での見せ方については決める必要がありますので、具体的な内容については委員長、副委員長および事務局にて検討し、改めて策定委員の皆さまへ提示したいと考えております。皆さまありがとうございました。

③第5次活動計画の冊子および広報について 資料4

【委員長】 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下、第5次活動計画）の特に推し進めたいアクションの選定について、事務局より説明をお願いします。

※資料4に基づき事務局より説明した。

【副委員長】 計画書について広く市民へ広報するためのチラシの作成を予定していると思うが、計画書の概要版を作成せず、チラシを作成することになった理由を教えてください。

【事務局】 概要版では計画の内容を事前に知らないと理解しづらいこと、印刷費用が高いことを踏まえ、第5次活動計画はチラシの作成および市内への全戸配布を行いたいと考えております。

【委員】 中間まとめにおけるアクションの中で、活動に参加している人という言葉は、地域社協で活動している人ではなく、地域で活動しているボランティアの方を指しているという認識でよろしいでしょうか。また、地域社協の方々は中間まとめにおけるアクションとは別に具体的な取り組みがあるということでもよろしいでしょうか。

【委員長】 中間まとめのアクションが対象としているのは、地域社協の方以外にも全ての市民が対象となります。また、地域社協では資料4 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 冊子および広報についての本書の8に記載されております、地域社協別地域福祉活動計画の中で具体的な取り組みを別に示しております。

【委員】 地域社協の方以外で活動している団体として、防災会、コミセンや福祉団体等がありますが、その団体およびその団体で活動している方々へ計画の周知および広報の依頼はされるのでしょうか。

【委員長】 第5次活動計画の具体的な周知先については、今後策定委員の皆さまに意見を出してもらいながら進めていきたいと考えております。

【事務局】 今後、計画に関する説明会の開催や、各団体の会合に参加して、広く周知していきたいと考えております。また、策定委員が所属する団体にも是非計画の周知についてご協力をお願いします。

【地域支援課】 武蔵野市の計画を策定した際、市報での広報および関連団体の総会等において計画書を配布しているほか、計画の概要版として計画の重点的な施策等が一目で分かるような文書を作成しております。第4次活動計画ではチラシを作成し、全戸配布しており、周知としては効果的な方法と考えられますが、一方でその効果に対する検証までは行われていないかと思えます。そのため、周知方法としての提案ですが、関係団体への配布、特定の場所で計画の本書を配布していることを周知すること、ホームページを開くと計画の本書が見られる等の周知を行う方がより効果的に広報が出来るのではないかと思います。

【事務局】 具体的な周知方法については今後策定委員の皆さまから意見を出してもらい、検討していきたいと思えます。ただ、ご提案いただいたとおり、関係団体への配布については第4次活動計画と同様に進めたいと考えております。また、ホームページでの計画の本書に関する案内についても積極的に取り組む予定です。

【副委員長】 第5次活動計画の全戸配布のチラシの内容については、委員長、副委員長および事務局にて検討をしている最中であったので、是非参考にしたいと思えます。また、地域福祉活動計画は地域社協等の地域で活動する方が計画の本書を見ながら活動できるような作りを想定しております。そのため、計画の本書を見てもらうことを目的として、敢えて概要版を作らずに、計画を策定したことを周知するためのチラシを全戸配布したいと考えております。

【委員長】 今まで誰に対してどのように周知していたのかを整理しながら、改めて周知

方法について皆さんと意見を出していきたいと考えております。

【委員】 私は吉祥寺近辺に住んでおりますが、今まで計画に関するチラシを見た覚えがありませんでした。そのため、全戸配布をすれば必ずしも市民に広く伝わるわけではないと考えております。

【委員長】 あくまで全戸配布の方法で周知が決定したわけではなく、周知方法の一つとして捉えております。次回の策定委員会では、具体的な周知方法について改めて提示し、それに対して意見を出してもらいます。

(4) その他

- ・ 中間まとめに対するパブリックコメント中間報告 資料5
※資料5に基づき事務局より説明した。

(5) 次回日程

- ・ 令和7年2月12日（水）18時30分より武蔵野商工会議所5階第1、2会議室

【委員長】 他になければ、これで第7回の策定委員会を終わります。

A グループ

基本目標1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く
武蔵野市にしよう！

阿部 春彦	和 秀俊	宮田 恵	吉田 真也
(職員)三藤、河合			

取組み

(1)地域の活動に参加しやすい情報発信を行う

の特に推し進めたいアクション

特に推し進めたいアクション1

●地域のことを「自分ごと」と捉えることができるような広報を行う。

選んだ理由

- 「自分ごと」として受け取る情報の方が食いつきやすく、理解できるため。(どんな情報であれ、自分ごととして捉えられないと興味がなく、情報を受け取ってもらえない。)
- 広く発信していくことに注力すると、情報を受け取って欲しい人に引っかかる(見てもらえる)情報にならないため。

到達目標

- 情報のプロパーのような人に教えてもらえるような勉強会や研究会を地域の方向けに開催する(広報の手法を得ることが可能)
⇒web デザイナーのような「イメージを大切にする」人が武蔵野市は多く住んでいそう。
- 各ターゲット(若者や定年退職後の方等)に届く情報を届け方(パッケージ)を考える。
⇒人材の発掘にもつながる。
- コピーライトのような刺さる言葉を皆で考え、発信する。

取組み

(2)福祉の情報を受け取りやすくする

の特に推し進めたいアクション

特に推し進めたいアクション1

●高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり、活用することが難しい人や内容をよく知らない人にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用等分かりやすい情報発信を行う。

選んだ理由

- 情報を届ける人に分かりやすい日本語で発信した方が良いため。
- 職員が一般的に使っている言葉が一般市民からすると分かりにくい言葉となっているかもしれないので、言葉を噛み砕いて伝えた方が良いため。
- 外国籍の住民の方や障がいの特性を持つ方(視覚障害や聴覚障害)に福祉の在り方を伝えることができる日本語は結果的に皆が納得する伝え方に繋がると思うため。

到達目標

●文字(視覚的な情報)に頼らず、絵等を用いた発信を行う。

B グループ

基本目標2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない
武蔵野市にしよう！

坂井 健司	鈴木 庸子	馬場 武寛	
(職員)木原、中村			

取組み

(4)地域で自然につながる

の特に推し進めたいアクション

<p>特に推し進めたいアクション1</p> <p>●SNS でイベント情報を広く周知する</p>	<p>特に推し進めたいアクション2</p> <p>●人が集まりやすく地域の拠点となりそうな場所（美容院や床屋、フィットネスジム、学校等）を見つけ、活動場所として活用する</p>
<p>選んだ理由</p> <p>●つながるためにはまずは情報を知る必要があるため。ただ、その内容だけではなく、SNS 以外の方法を検討したり、どういった情報を集めるかを整理する必要があると思う。</p>	<p>選んだ理由</p> <p>●集う場がないとつながれないため。人が集まりやすいためコミュニティができやすいのだと思う。他に例を挙げるとすれば、クリニックやマッサージ、ラジオ体操などの場もいいと思う。ただ、新しく活動をつくることは難しい(サロンやフリーマーケットなど)ので、既存のイベントや場所を活用した方が良い。</p>

その他出た意見

- ・SNS を誰が管理するのが難しい。活動の実施主体が、活動をしながら SNS を有効に活用していくのが難しいように感じる。広報を担う人の整理は必要だと思う。活動者に負担がかかりすぎているので、活動に集中できるよう、情報発信と活動は分けた方が良い。
- ・活動者がやるべきことと、社協や公共機関がやるべきことを明確に分けた方が良い。周知すべき内容を整理し、プロ(例:社協)がその情報を集めて一括で広報した方が良いと思う。
- ・「地域で自然につながる」の「自然に」がわかりづらいので、文言を変更した方がいいかもしれない。

C グループ

基本目標2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない
武蔵野市にしよう！

熊田 博喜	見城 学	西田 順子	町田 敏
(職員)林、岡田			

取組み

(5)地域で一緒に活動できる仲間を増やす

の特に推し進めたいアクション

<p>特に推し進めたいアクション1</p> <p>●地域福祉活動と関わる機会を増やす</p>	<p>特に推し進めたいアクション2</p> <p>●地域福祉活動の評価と精査(見直し)を行う</p>
<p>選んだ理由</p> <p>●担い手を増やすためには、働いている人の隙間時間やライフスタイル等も考慮して、薄く広くかわる機会を増やすことが大切。 ⇒隙間時間を活用できるような体制づくりが必要</p> <p>●子どもが幼い時に地域と関わる機会が多いが、成長につれて減少する。しかし、幼かった時の地域のつながりを通じて、地域活動に戻ることもある。(つながりを絶やさないことが大切) ⇒地域活動に関わるきっかけの事例集めや、一連の流れの「ストーリー」を作って紹介するような仕掛けも有効ではないか。</p> <p>●団体の事務負担(書類作成、経理等)を軽減することも結果として担い手の増加につながる可能性がある。</p>	<p>選んだ理由</p> <p>●既に地域活動を行っている人が評価されるしくみを作り発信する。 ⇒評価の機会があることで活動者の自信にもなり、新たな参加者への啓発にもなる。評価の機会(しくみ)をどう作るか。</p> <p>●趣味活動や地域活動に関する発表・大会等の場があれば、活動する人のモチベーションになり、新しい人に対するPRにもつながる。</p> <p>●大変な活動をしている人ほど、しっかりと評価を行うことが大切。</p> <p>●企業等で新たな活動を行う時は、まず初めに現状の事業を精査し、辞める事業を決める。 ⇒そのまま地域福祉活動に当てはめることはできないが、限られた人材を生かすには活動を増やすだけでなく、既存活動の精査(見直し)を行い、減らす視点も必要。</p> <p>●地域社協とコミセンが連携した場合、両団体で行っている類似事業を精査・統合できる可能性もある。</p>
<p>到達目標</p> <p>(到達目標までは議論未到達)</p>	<p>到達目標</p> <p>(到達目標までは議論未到達)</p>

D グループ

基本目標2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない
武蔵野市にしよう！

酒井 陽子	佐藤 清佳	福本 千晴	山田 剛
(職員)後藤			

取組み

(3)困った時に助け合えるしくみをつくる

の特に推し進めたいアクション

<p>特に推し進めたいアクション1</p> <ul style="list-style-type: none"> ●気軽に集まったり、何気ない会話ができる相手を増やす。 <p>【このアクションに関係するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(すべての市民のアクション)身の回りで困っている人の存在に気づいた時、できる範囲で助け合ったり、支援の窓口を紹介する。 ●(活動に参加している人のアクション)緊急時・災害時に助け合えるような関係を普段からつくる。 	<p>特に推し進めたいアクション2</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(活動に参加している人のアクション)支援機関の情報やサービス等を把握し、支援を必要とする人に伝える。
<p>選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緊急時、災害時こそ地域で助け合うことが大切だと思う。そのためには、日常からのつながりが大事であるから。 ●顔の見える関係性があることで、自然と悩みを話すことができたり、普段の会話の中から自分で悩みに気づくことが出来たりすると思うので、やはり日常的なつながりこそ必要だと思うから。 ●日常的なつながりづくりは、専門機関や活動者だけでなく、まだ地域活動参加していない市民の意識も大切だと思うから。 	<p>選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知り合いが困っている時に、適切な相談機関や情報を伝えたいと思っても、そもそも情報を知らないとつなぐことができないから。知っている情報を伝えあえるようになるために、情報の発信や整理が大事だと思う。
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●既存の施設を借りるだけでなく、「公園」のような気軽に集まれるスペースや、実際に顔を合わせなくてもつながれる「仮想空間」のような場など、気軽に会話ができるような空間で集まる機会を増やす。 ●困っている人と情報を伝えたい人の双方に認知されるような発信を行う。 	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報を受け取りやすくするため、発信のバリエーションを増やす。 ●相談支援機関等の情報がまとまっているバインダーを作成し、自由に閲覧できるようにする。 ●特定の悩みを持つ人が知りたい市内の情報を集めて、紙媒体やインターネット上で発信する。 ●相談支援機関の見える化をする。